



verve

05

あなたと栄仁会をむすぶ情報誌
September 2010

医療・介護サービスを支える、
若いチカラ。

精神科を支える。
内科・神経内科領域の重要性。



特集

宇治おうばく病院と栄仁会グループが提供する、
認知症医療と高齢者介護。

RESPECT ~リスペクト(尊敬)を込めて



医療法人 栄仁会

宇治おうばく病院

べるぶ:仏語のVERVE「活気」より

宇治おうばく病院と栄仁会グループが提供する
認知症医療と高齢者介護。
RESPECT～リスペクト（尊敬）を込めて



座談会

新しいシステムづくりを模索する、 認知症医療、高齢者介護の現場から。 ～栄仁会ネットワークの可能性～

認知症医療と介護の現場で、
今いちばん必要なもの。

精神科の身体合併症病棟と内科心
療内科病棟を併設する当院ならでは
の強みを生かし、認知症医療と高齢
者介護において、宇治おうばく病院
と栄仁会グループが果たすべき役割と
は何か。ご家族へのフォロー、地域医療
機関や施設との連携を深める円滑
なコミュニケーションなど、さまざまな
問題が入り交じる中、医療と介護、サ
ポートの現場で、日々奮闘する最前
線の声がここにあります。

認知症医療と介護の現場で、
今いちばん必要なもの。

三木 治療の可能性があるものであ
れば、すべての人は皆平等に治療を受
ける権利があると思うのですが、実
際、認知症や精神疾患の場合は、一般
の病院になかなか受け入れてもらえ
ないという現状があります。とくに入
院は、夜の徘徊が問題になり難い。
そんな状況を受け、今回、認知症医
療と高齢者介護に対するキーワード
として「リスペクト（尊敬）」という言
葉を選びました。皆さんはどう思わ
れますか。

辰巳 患者さんへのリスペクトは、と
ても大事だと思います。とくに認知
症治療病棟（※1）に入院される方
は、家庭や施設では見ていただけない
方が多いのですが、入院されると意外
に薬を使わなくとも、自由に生活す
るだけで落ち着かれる方もたくさん
おられるんですね。そんな様子を見る

患者さんはもちろん、
ご家族にも必要な、
RESPECT（リスペクト）。



と、制限をかけられたり、本人にとつ
て嫌なことを言われながら今まで生
活してきたのかなと思います。社会や
家庭のルールが守れない認知症の方に
とっては難しいですが、尊厳を大切に
し、その人らしい生活をすることは大
切だと実感します。

大土居 認知症の方は、同じことを
何度も言われるので、傍で介護する
人間もついイラライラしてしまいます
人生の先輩だから尊敬の念を持つて、
丁寧に接しようという気持ちはもち
ろんあるのですが。そんなとき、「やま
ぶきの郷」（※2）では、事前に生活歴
などをご家族から聞いておき、何度も
同じ訴えを繰り返し始めたときは、こ
ちらから生活歴に合った話をしたり、
得意なことの中から何か簡単にでき
る手作業を提供したりして、対応す
るよう心掛けています。周りから「変
な人」と思われないよう配慮する。こ
れも患者さんの尊厳を守るために必
要なことだと思います。

金森 私の業務は、入院されている
方が退院に向けて動く中で、在宅が、
施設が、長期療養の病院に転院され
るか、その方に適した行き先を考え
いくことが主な仕事なんですが、回転
が速いので数も多く、ついマニアルに
沿った対応に偏ってしまうことがあります。どういったところに行くのがご
本人にとっていちばん過ごしやすい環

いま求められる、 認知症医療と 高齢者介護。

医療や介護を受けるという、
人として当たり前の権利を守りたい。

超高齢社会を迎えるいま、認知症を患っている人は現在約205万人とい
われ、2035年には約445万人になるとの予測が出ています（※）。認知症は
脳や体の疾患を原因として、記憶力や判断力などが著しく低下し、普通の社
会生活が送れなくなる病気です。かつては認知症の症状があるだけで、一
般内科での受診を断られたりすることもありました。現在、認知症への理解
は確実に広がり、治療や介護の分野でもめざましい進歩があります。対応で
きる病院も確実に増えているものの、夜間の徘徊など不可解な行動があつた
りすると、他の内科的疾患があつても入院を断られるなど、必要な治療や検
査が十分に受けられない場合もまだあるのが現状です。本来、人は一個の
人間として、認知症を患っているが精神疾患を患っているが、平等に
治療を受ける権利があると思いますが、なかなか受け入れてもらえない現実
があります。そうした現状をなんとかしたい、認知症を患っていても、人間ら
しく尊厳をもって医療や介護を受けるという「当たり前の権利を守りたい、そ
んな思いを RESPECT ～リスペクト～という言葉に込め、宇治おうばく病院と栄仁会グ
ループが目指す、これから認知症医療と高齢者介護の指針に掲げたいと
思います。

※厚生労働省研究班による推計値（平成20年7月）

認知症疾患医療ネットワークの整備を目指して。

昭和46年に内科を開設して以来、身体合併症と認知症医療に本格的に取り組んできた当院だからこそ、「もっと地域に貢献できることがあるのではないか」という思いを、私は常に強く感じています。ますます増加するであろう認知症患者にとって、精神症状の悪化した人、緊急な治療を要する身体合併症を持つ人などを優先的に入院させ、症状が落ち着いたら在宅で支えるというしっかりしたシステムが整っていなければ、多くの認知症患者が満足な医療と介護を受けられなくなるかもしれません。そんな思いから、今後は、できるだけ早期に認知症救急体制を確立した上で医療とマネジメントの整備をすすめていくことが重要だと考えています。そのためにも、栄仁会としてのネットワークを充実させるのはもちろん、地域の病院や診療所、介護施設、訪問看護・介護サービス事業所等と連携を深めながら、お互いが有効に機能し合える認知症医療と介護のシステムを整えていきたい。これらを実現することが、認知症を患っている方、高齢者の方に対し、本当の意味で敬意を持ちサービスを提供していくことだと考えています。

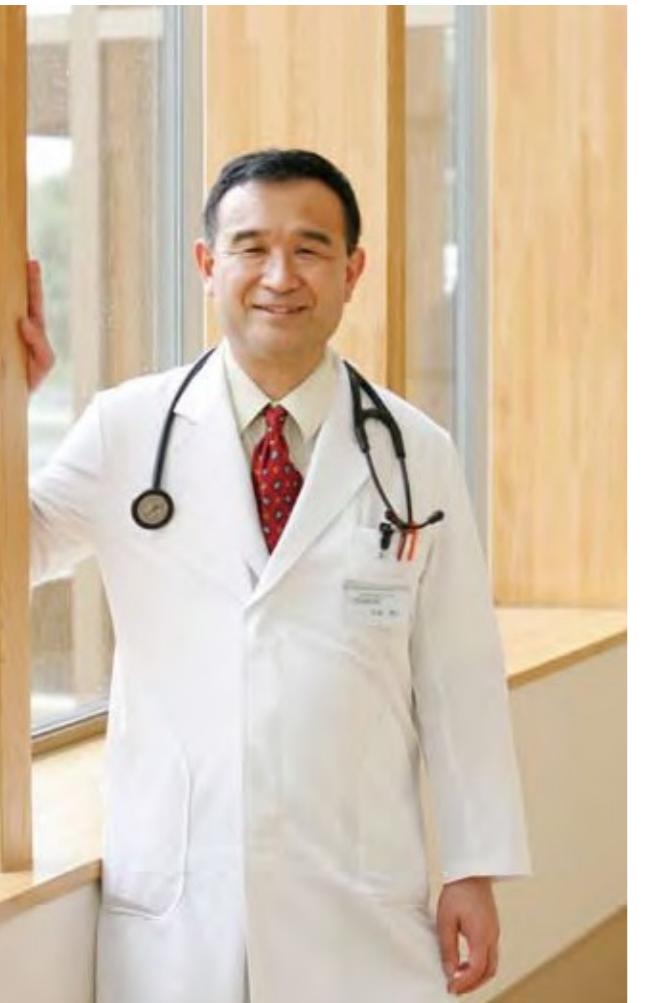
栄仁会 理事長・院長 三木 秀樹（愛知県出身・うお半）

1983年、金沢大学医学部卒業後、研修医を経て1985年より勤務。2005年第9代院長就任。2009年6月より理事長を兼任。趣味は読書。



精神科を支える。 内科・神経内科 領域の重要性。

宇治おうばく病院は、精神科身体合併症病棟のほかに、内科・神経内科病棟を整備し、内科医と精神科医の2人主治医体制を確立しています。今回は、内科副院長の木城先生に、当院ならではの強みと今後の展望についてお聞きしました。



内科副院長 神経内科部長兼任
木城 靖之(寺田川出身・うお座)

1990年島根県大卒後、京大病院、ヨリドウ病院多賀病院、米国 NIH(米国衛生研究所)を経て 2010年2月より当院へ。オブ住家庭と過ごしたり、京都大学研究室でアルツハイマー疾の研究に没頭したり。趣味は温泉旅行。駄菓子となりのトトロ」に対するネコバスの大ファン。

日本の少子高齢化は急激に進行しており、大きな社会問題となっています。当院に入院、通院中の多くの患者さんも高齢者であり、心不全や糖尿病、脳梗塞などの内科的疾患を抱えていることが多いのが現状です。また高齢の方は、薬を長期に大量に内服されることで、副作用の影響も出やすくなります。当院は、精神科とそれを支える内科を併設していることで、まさにこれからの中高齢者医療において真の「一元化」に応えることができる病院だと考えています。私自身は、アルツハイマー病、パーキンソン病などの神経変性疾患を専門としており、認知症の診断治療も積極的に行っております。

認知症と言つてもいろいろな原因があります。いちばん多いのは、アルツハイマー病。これは根本的治療も予防すらもできません。次に多いのは、脳血管性障害による認知症。これについては高血圧、糖尿病がベースになって発症しますので、血圧や糖尿病、コレステロールをコントロールすることで、内科的に改善していくことができます。認知症の中でも幻覚、妄想、徘徊、不潔行為、暴力行為など周辺症状に関するコントロールは、精神科の先生にお任せできるので、安全性を確保します。また当院で新薬の治療も始まろうとしているところです。

■ 当院には、現在内科療養型病床が118床あり、パーキンソン病や脊髄小脳変性症の患者さんも受け入れが可能ですが、救急体制は整備されていませんので、できるだけ日中での受診をお願いしています。ただし電話による当直内科医への相談は可能。まずは地域連携室にご連絡ください。

**精神科に内科を併設している
ということの、強みとは。**

**安心して、内科的な治療を受けて
いただける環境があります。**

**認知症の基幹病院となつて、
診断や治療を行えるシステムづくりを。**

日々のレクリエーションをもっと充実させていきたい!

小規模多機能居宅介護 やまぶきの郷 介護福祉士

久保 めぐみ(京都府出身・てんびん座)

休日は梅林町に遊び、新しい見聞や技術を吸収しています。

仕事上で、もっとも気を付けていることは、利用者さんの尊厳を傷つけないということ。利用者さんに「人の世話になっている」と感じさせないような、自然体でケアができるらしいなと思っています。利用者さんから「私ここ大好き」「早く迎えてほしかった」といった言葉をいただくのが、嬉しいですね。今後も、レクリエーションをもっと充実させながら、利用者さんとそのご家族、スタッフ自身も笑顔でいられるよう、サービスの向上に努めたいです。



理学療法の知識と技術を、さらに深めるため勉強中。

リハビリテーション室 理学療法士

四方 公康(京都府出身・おうし座)

休日を利用して、理学療法と運動機能の腕前について大学院で学んでいます。

高齢者はとくに、寝たきりが続くと床ずれや筋肉の萎縮、関節が固まるなど改善困難な疾患につながることがあるので、予防・改善のため、運動療法だけでなく、病棟の協力を得て日中の過ごし方を工夫してもらっています。また病棟スタッフの方にも福祉用具に触れてもらう機会を持てるよう、勉強会などを開催していきたいと思います。今後も患者さんひとり一人の障がい特性に応じたプログラムを選択し、実践していくよう、知識、技術を向上させていきたいです。



医療・介護サービスを支える、若いチカラ。

認知症医療、高齢者介護の現場でそれぞれの役割を果しながら業務に取り組む若いスタッフたち、宇治おうばく病院と栄仁会グループのこれからを担うマンパワーです、それぞれの仕事への意気込み、日々実感していること、今後の目標などを伺いました。

常に、相手の立場に立って行動するよう心掛けています。

少しでも笑顔で過ごしていただくことを、大切に。

介護療養型医療施設「むつみ」介護福祉士

中島 延嘉(京都府出身・おひつじ座)

友人に連れていったボランティアがきっかけで、この道に進むは魚釣りです!

認知症を患っている高齢者の方への日常生活の援助をさせていただいている。お手伝いをする際、可能な限り相手の立場に立って判断、行動するよう心掛けていますが、怒りや苛立ちなど自分の感情が顔に出やすいらしいので、改善しなくては、と思っています。利用者さんやそのご家族に「ありがとうございます」と言っていただくだけで、また頑張ろう!という気持ちがわいてきます。今後はケアマネージャーの資格を取得し、さらに仕事の幅を広げていくのが目標です。



グループホームおおわだの郷 看護師

高田 智子(京都府出身・さうし座)

休日は、子どもたちと一緒に遊びます。認知症介護実習研修にも参加。

子供の頃、お年寄りを見て、「さびしそう」だな、という印象を抱いていました。その表情が忘れられず、今も少しでも笑顔で過ごしていただきたい、という思いが強いですね。それを守ることが一番大切で、個人の尊厳の保持につながるのではないかと考えています。決して他人事ではない、認知症。今後も認知症について学びを深め、その学びを伝え広めて、少しでも認知症の方が住みやすい社会へとなるよう、役に立てたらと思っています。





兵男 仁一郎(38歳)

「自分らしい暮らし」への第一歩を、応援します。「栄仁会ワークネットきょうと」

平成22年4月、待望の就労移行支援事業所「栄仁会ワークネットきょうと」が開設されました。

「栄仁会ワークネットきょうと」では、精神障がいをお持ちの方で、働きたいと希望されている方に対し、一般就労を目指したサポートを行っています。もちろん将来的に就労していただきのが目的なのですが、単にそれだけではなく、就職後も長く働き続けられるよう支援することで、「本人の自立の手助け」がければと考えています。

現在の訓練は、所内での軽作業、清掃業者からの清掃業務の委託事業、地域の業者との連携による農園作業の3事業。これらの訓練は、生活リズムを整え、体力をつけ、さらには挨拶などの社会常識を身につけることを目標にしています。そして、利用者には時期を見て次の段階である企業実習に参加していただきます。まだまだ実習を受け入れていただく協力事業所の数は少ないですが、それでも7月からは4名の利用者が実習に参加しています。

これから、一般就労に向けた具体的な支援が始まります。利用者それぞれの夢や希望が実現できる、皆さまのご期待に添える「栄仁会ワークネットきょうと」になりますよう、確実に歩ずる歩みを進めていきたいと思っています。

現在の訓練は、所内での軽作業、清掃業者からの清掃業務の委託事業、地域の業者との連携による農園作業の3事業。これらの訓練は、生活リズムを整え、体力をつけ、さらには挨拶などの社会常識を身につけることを目標にしています。そして、利用者には時期を見て次の段階である企業実習に参加していただきます。まだまだ実習を受け入れていただく協力事業所の数は少ないですが、それでも7月からは4名の利用者が実習に参加しています。

これから、一般就労に向けた具体的な支援が始まります。利用者それぞれの夢や希望が実現できる、皆さまのご期待に添える「栄仁会ワークネットきょうと」になりますよう、確実に歩ずる歩みを進めていきたいと思っています。

「栄仁会ワークネットきょうと」では、精神障がいをお持ちの方で、働きたいと希望されている方に対し、一般就労を目指したサポートを行っています。もちろん将来的に就労していただきのが目的なのですが、単にそれだけではなく、就職後も長く働き続けられるよう支援することで、「本人の自立の手助け」がければと考えています。

平成22年4月、待望の就労移行支援事業所「栄仁会ワークネットきょうと」が開設されました。

さかえ3兄弟からのお知らせ

三男 仁三郎(28歳)

参加費は
無料です



「認知症の方と暮らしていくために」(仮) ~大切なのは、早期の受診と信頼できる支援体制~

平成23年2月19日、認知症公開セミナー開催予定!

次男 仁次郎(32歳)

京都大学宇治キャンパス内
宇治おうばくプラザ「きはだホール」

わせください
詳細は宇治おうばく病院、地域連携室までお問い合わせください

編集後記

今回の座談会では、栄仁会グループの「リスクベクトル」について、それぞれの視点の違いを越えて語り合つことができました。今後も利用者のサービスを提供できるよう、病院と地域のスタッフが力を合わせて語り合った内容を実行していくことが、真的「リスクベクトル」につながっていくのだと思います。

“よりそって医療、よりそってケア” 栄仁会スタッフ募集

職種 ①看護師 ②准看護師 ③看護補助者(臨時のみ・無資格可)

勤務 ①② 8:30~17:00・16:45~翌8:45(病棟2交替)

③ 8:30~17:00(早出・遅出・夜勤有/週5日)

待遇 ①② 年間休日113日、有給休暇・特別休暇・各社保完備 ③各社保完備

①② 常勤者には、就職支度金として20万円支給!

応募・問い合わせ 詳細はお気軽にお電話ください。

0774-31-1362 (担当/総務部塙空 松本)

院内
保育所
完備!

法人事業所介護スタッフも
同時募集



(表紙モデル) 訪問看護ステーションをさくらん所長 東 篠子(大分県川中島町・みどりが丘) 訪問看護やまぶきの郷 所長 松浦君枝(福井県・身・ふたご庄)
訪問看護ステーションおうばく係長 鈴木利彦(京都府・身・みずがめ庄)

拝見サイトは、
こちらから。

